

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4079200285		
法人名	株式会社ケアシテム		
事業所名	グループホーム香春		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡香春町香春776-2 (電話) 0947-32-7700		
評価機関名	(株)アーバン・マトリクス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月21日	評価確定日	平成21年12月31日

【情報提供票より】(2009年11月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 12.7 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1ヶ月当たり 10,000 円			

(4) 利用者の概要(11月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐柳医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム香春は、香春岳の麓、昔からの住宅地に位置する事業所である。近隣には、神社や病院(協力医)、スパー、役場、学校もあり、利便性に長けている。平屋造りに2ユニットを有する建物は広く、食堂兼居間は40畳、50畳のスペースが確保されている。職員は、このスペースを活かし、「寝たきり0(ゼロ)」を目標に掲げ、ユニット間の交流も盛んに行いながら、多様なレクリエーションや、機能訓練、生活リハビリに日々、力を注いでいる。その為、食事の際は会話も盛んで、夜間も睡眠薬を使用する方は一人という。また本事業所の特徴としては、県下随一の家賃と食費の低価格が挙げられる。この価格設定には、代表者の「年金生活でも入居出来るように、全ての方に入居の機会があるように」との思いがある。このように社会のニーズを真摯に受け止めながら、入居者一人ひとりの自立した暮らしの実現に、日々努めている事業所である。今後の更なる展開が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回では、改善課題として、次の5項目が挙げられた。地域密着型サービスとしての理念、権利擁護に関する制度の理解と活用、職員を育てる取り組み、同業者との交流を通じた交流、思いや意向の把握。各項目とも進捗状況に差はあるものの改善に向けての取り組みがなされていることが確認出来る。他方、計画書や実施記録がないケースについては、再考を要すると考える。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者は、自己評価・外部評価の意義を職員に伝え、具体的な改善に活かせるよう努めている。自己評価については、ワンフレーズの記述に留まり、具体的な取り組みは分かり難いものであった。今後、自己評価については、職員間で話し合いや検討を行ない、より具体的な記述を期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>協力関係にある(or地域の)社会福祉法人理事長や、特別養護老人ホーム指導員、役場職員、代表者、管理者の出席で、2ヶ月に1回実施している。運営・活動状況報告や、質疑応答を行なっている。入居者や家族の参加は見られないが、後に報告している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会はないが、普段より、家族の面会が多い為、その際に、報告を行ったり、意見の収集に努めている。家族への報告は、毎月、入居者の写真(全員統一、50枚程度添付)を、請求書と一緒に送付している。「文章よりも、表情重視」という方針で、コメントは付けていない。「家族にも好評」とのこと。金銭管理については、立替払いを行い、後に領収書を送り、精算するという仕組みを取っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民の入居をきっかけに、交流・親睦が深まっている。区長や老人会長を始め、近隣の方より、祭や老人会等、地域行事の案内がある。6月には民生委員30人の見学もあった。また三味線や空手等、地域住民(ボランティア)の発表の場として活用されるよう場所と機会の提供に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に代表者が作成した理念に加え、職員間で話し合い、地域密着型サービスの主旨を踏まえた独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示し、常に意識するよう努めている。また管理者は、ミーティングや会議時に取り上げ、理念の意識付けや確認を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の入居をきっかけに、交流・親睦が深まっている。区長や老人会長を始め、近隣の方より、祭や老人会等、地域行事の案内がある。6月には民生委員30人の見学もあった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、自己評価・外部評価の意義を職員に伝え、具体的な改善に活かせるよう努めている。自己評価については、ワンフレーズの記述に留まり、具体的な取り組みは分かり難いものであった。		自己評価については、職員間で話し合いや検討を行ない、より具体的な記述を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	協力関係にある(or地域の)社会福祉法人理事長や、特別養護老人ホーム指導員、役場職員、代表者、管理者の出席で、2ヶ月に1回実施している。運営・活動状況報告や、質疑応答を行なっている。入居者や家族の参加は見られないが、後に報告している。		

グループホーム 香春

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場は近く、知人も多い為、相談等で、気軽に行き来出来る関係にある。日頃から、情報収集や良好な関係作りに努めている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度の利用者はいない。外部研修への参加は出来ていないが、内部では、パンフレットを活用し、勉強会を実施している。マニュアルも完備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の写真(全員統一、50枚程度添付)を、請求書と一緒に送付している。「文章よりも、表情重視」という方針で、コメントは付けていない。「家族にも好評」とのこと。金銭管理については、立替払いを行い、後に領収書を送り、精算するという仕組みを取っている。		より本人本位、サービスの質の向上を図る為には、家族と職員の良好な関係作りは不可欠である。この観点から、職員の異動や新たな職員入職時には、写真や文書等で紹介する等の配慮を期待したい。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、普段より、家族の面会が多い為、その際に、報告を行ったり、意見の収集に努めている。		「苦情はサービスの質を向上させる」という視点をから、面会時だけでなく、事業所が主体的、積極的に意見の収集を働きかけ、その反映状況を透明化する仕組み作りを期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はあるが、職員は、出退勤時の挨拶を必ず行ったり、普段から顔見知りの関係にある為、入居者に戸惑いはない様子。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、優しさや、思いやりを重視し、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際に、男女比のバランスも良く、20～60代の幅広い年齢層の職員が勤務している。		

グループホーム 香春

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の権利について、契約書に明記している。代表者は申し送りを重視し、漠然とした話ではなく、実際の場面状況に当てはめ、具体的事例に基づいて、説明することにより、人権教育に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	研修計画は作成していないが、採用後は、管理者がマンツーマンで付き、丁寧に伝達することに始まり、一人ひとりの能力に応じて、日常業務の中でトレーニングしている。職員のヒアリングから、上司には相談し易い雰囲気であることが確認出来た。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	市内の協議会には加入していないが、町内のグループホーム(4件)や特養と交流があり、情報交換を行なっている。交流については、運営者、経営者レベルでの交流に止まり、一般職員での交流はもたれていない。この点について、代表者は、「(職員の)意識レベルが低いので、愚痴レベルの話になるので、あまり良くない」との考えを持っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初に家族に説明を行い、その後に本人に来院してもらおうというプロセスになっている。体験入居は実施していない。管理者は、事前に本人の暮らしの場(自宅・施設・病院)を訪れ、本人が安心して利用出来るよう、細やかな情報収集に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の話を傾聴し、レクリエーションや、リハビリ等を一緒に行なう中で、楽しみや喜び、達成感等を、共にする関係作りに努めている。現在、レクリエーションで、手話を用いて歌に取り組んでいるが、覚えの早い入居者から、職員が教わる場面も見られる。		

グループホーム 香春

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日常の中から、本人の思いや意向を把握し、本人本位に検討している。但し、アセスメントについては、ADL中心で、入居者の思いや好み、生活歴等の記述は少なく、本人本位の根拠が乏しい。		アセスメントの段階で、一人ひとりの生活歴や習慣、好み等を把握し、それが、本人の思いや意向を得る・探るツールとして、活用されることを期待したい。センター方式の導入を検討することを期待したい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	介護支援専門員を中心に、職員間で話し合いや看護師の情報を参考にしながら、介護計画を作成している。アセスメントに倣い、全体的にADLや医療面に重きを置いた計画書が作成されている。		生活歴や習慣、好み等を踏まえたアセスメントが作成されることにより、より多角的視野に立った本人本位の計画の作成を期待したい。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	全職員の率直な意見を収集するとともに、関係者の意見を参考にしながら、定期的な見直しや、状態変化に伴う随時見直しを行なっている。経過記録は詳しく、現状把握に努めていることがうかがえる。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	一人ひとりの希望に応じて、買物や自宅への送迎、友人宅訪問同行等、柔軟に対応している。また三味線や空手等、地域住民(ボランティア)の発表の場として、活用されるよう努めている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望を尊重している。契約時に説明を行い、協力医とかかりつけ医の選択を行なってもらっている。受診については、職員が対応し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 香春

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	指針を定め、同意書も得ている。家族や医師と話し合いながら、事業所として、出来る限りのことは行なうという姿勢で臨んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人情報の利用目的を定める等、プライバシーの確保、配慮に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	日課として、朝のラジオ体操、リハビリ等が設けられているが、基本的に、一人ひとりの意向やペースを尊重した暮らしを支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事の準備・後片付けについては、食材を切ったり、テーブル・お盆拭き、下膳等、一人ひとりの状態に応じて、出来る範囲で行なっている。献立については、管理者が、入居者の好みを反映したものを作成し、食事が楽しみとなるよう努めている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの好みや体調に合わせて、2日に1回、午後から実施している。仲の良い方同士で入浴することもある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 香春

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日常的に、レクリエーションや個々の役割として、誕生日会(毎月)、ピーズ作り、料理、化粧、カラオケ、ボーリング、パズル、書道、漢字・計算ドリル、カレンダー作成、洗濯物たたみ等が位置付けられ、実施されている。また春と秋にはドライブを実施し、外食や足湯温泉等を訪れている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	一人ひとりの意向や体調、天候に合わせて、散歩している。散歩は、広い敷地を利用して、敷地内で行なっている。また週に1回、近隣のスーパーへ日用品等の買物で、出掛ける等の支援を行なっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は施錠することの弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関はユニットごとにある為、2つあるが、内1つは施錠している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	訓練は、年に2回実施している。消防署の立会いについては、現在準備中であり、報告のみ行なっている。マニュアル、緊急時のフローチャートを備えている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立は、入居者の好みやカロリー計算を踏まえ、管理者が、1ヵ月ごとに作成している。提供についても、減塩や刻み食等、一人ひとりの状態に合わせた対応を行なっている。食事・水分摂取量については記録し、適切量の確保に努めている。体重測定は1ヶ月に2回実施し、一人ひとりの状態確認に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 香春

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	食堂と居間を兼ねる共有スペースは40畳と50畳を広く、室内は明るい。壁面には、入居者手作りの飾りや、書道の作品等が掲示されている。脱衣場には暖房を完備する等の配慮も見られる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室内には介護用ベッド、クローゼット、手すり、エアコンが完備されている。各人が、使い慣れたものや、好みのものを持ち込んでいる様子も確認出来る。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			